

鳥綱

スズメ目, ヒタキ科

XIV. ガビチョウ属 *Garrulax* Lesson, 1831

形態 この属の鳥の多くはガビチョウとよく似ている。嘴は通常まっすぐで強く、種によってはやや曲がっていたり、嘴の先端に小さな切り込みのあるものもある。鼻孔は完全に、あるいはほとんど硬い髭で覆われ、現われることがなく、あるいは半分が硬い髭で覆われているか、または硬い髭ではなく、曲がった羽毛が鼻孔の上に垂れ下がっているものもある。目先は羽毛で覆われ、翼は短円形で大方は羽縁が輝くような色をしている。初列風切羽第1羽は非常に発達し、第5と第6羽が最も長い。尾羽は12枚、円形あるいは凸形をしており、その長さは翼とほぼ等しいか、やや長い。跗蹠は長くて強い。体の羽毛は柔らかく豊、鮮やかで美しい色彩をしている。雌雄は通常同色である。

生態 好んで群れを作り、通常は小群で生息する。採食場所は地上か、あるいは草の茂った灌木の中、時には樹上のあることもある。雑食性で主に昆虫と漿果を食べている。鳴き声は騒々しく、多くの鳥の鳴き声を似せて鳴く。脚は強く、よく地上を駆け回る。多くは短距離を飛び、地上高く飛ぶことはない。毎年高地との間を垂直移動するほかは、渡りをしない。繁殖は灌木の茂みの中で行なわれ、雛は晩成型である。

分布地理 主に東アジアに生息する。国内の主な分布域は華南各省、特に雲南と四川省に多く、台湾、華北、チベットなどにも少数種が分布している。国外では東南アジア、バングラデシュ、インド、ブータン、ネパール、パキスタン、さらに西へアフガニスタン、タジクスタンと、南へ及んでスリランカ、およびインドネシアのスマトラ、ジャワなどにも分布する。本属はシベリア、日本、朝鮮、フィリッピンでは見ることが出来ない。

このガビチョウ属は46種 (Deignan, in Mayr et Paynter 1964) をかぞへ、そのうち我が国では33種 (鄭作新, 1976)、全体の71.8%、実に3/4を見ることが出来る。同時に雲南、四川両省に産するハクオウチョウ (*Garrulax leucolophus*)、セスジガビチョウ (*G. lunulatus*)、アカオガビチョウ (*G. milne*) のように土着の種も少なくない。これらを見てくると、ガビチョウ属の起源は四川、雲南両省の、特に四川省西南部と雲南省西北部の横断山脈地域にあると思われる (鄭作新, 1982)。

IX. ガビチョウ属 *Garrulax* の識別検索

1. 鼻孔が完全にあるいはそれに近く羽で覆われている-----2
 鼻孔は僅かに隙間をもって覆われている-----6
2. 嘴の形はやや下に向かって曲がる；
 鼻孔の所で厚みと幅がやや大きい-----キタガビチョウ *G. davidi*(105)
 嘴は厚く真直ぐ；鼻孔の所で厚みと幅がより大きい-----3
3. 顎(顎先が黒いものを除く)と喉が白い-----ミミジロガビチョウ *G. caerulatus*(117)
 顎と喉が淡い栗褐色-----カオジロガビチョウ *G. sannio*(126)
 顎と喉がオリーブ灰褐色-----カオグロガビチョウ *G. perspicillatus*(82)
 顎が黒、喉は黒褐色あるいは黄色を帯びた黒褐色-----4
 顎と喉が黒色-----5
4. 喉と胸に黒斑がない-----タケドリ *G. poeclorynchus*(118)

- 喉と胸に黒斑がある-----ムナボシガビチョウ *G. greenlinus*(121)
5. 頸側および下尾筒が鮮明な栗色、耳羽は黒色-----アカエリガビチョウ *G. ruficollis*(120)
- 頸側および下尾筒が栗色でない、耳羽は白色
 (時には黒褐色あるいは黒色に変わる)-----タイカンチョウ *G. oginensis*(100)
6. 翼長が尾長より長いかあるいは同等-----7
- 尾長が翼長に比べて長い-----12
7. 頭頂と冠羽が白い-----ハクオウチョウ *G. leucolophus*(88)
- 頭頂が白くなく、顕著な冠羽がない-----8
8. 額から耳羽と顎まで黒色；腹部が黄色-----キノドガビチョウ *G. galbanus*(102)
- 額が黒くない；腹部が黄色でない-----9
9. 体の下面は茶褐色を帯びた白、胸に黒色の帯-----10
- 体の下面は茶褐色の白ではない、胸に黒帯がない-----11
10. 頬に黒色斑紋、耳羽は黒くて白い縦紋-----クビワガビチョウ *G. pectoralis*(92)
- 頬に斑紋なし、耳羽は灰白色、上から下へ黒斑-----ヒメクビワガビチョウ *G. monileger*(90)
11. 喉と前胸部純白、後胸はオリーブ褐色、腹部は茶褐色-----ノドジロガビチョウ *G. albogularis*(85)
- 喉と胸部が褐色あるいは栗褐色-----ハイイロガビチョウ *G. maesi*(98)
- 喉と胸部は栗褐色、胸の後部に灰色の帯。
 腹部は茶褐色あるいはオリーブ褐色-----シロエリガビチョウ *G. stiepitanius*(97)
12. 上嘴の先端に歯突がない、鼻孔に僅かな羽毛が覆う-----13
- 上嘴の先端に僅かに歯突がある、鼻孔は完全に裸出-----17
13. 尾羽は白あるいは端に褐色斑、嘴の形正常-----14
- 尾羽は白くない、褐色の斑、嘴の形は短く特に厚い-----シロスジガビチョウ *G. striatus*(96)
14. 背部に黒色横斑、羽端に茶褐色あるいは白色斑-----セスジガビチョウ *G. lunulatus*(111)
- 背部に白斑、黒色の横斑がない-----15
- 背部に白斑がない-----16
15. 喉が黒い-----シロボシガビチョウ *G. ocellatus*(115)
- 喉が茶褐色-----オオシロボシガビチョウ *G. maximus*(113)
16. 尾羽の先端と次列風切羽羽端黒色-----ヒゲガビチョウ *G. cineraceus*(109)
- 尾羽の先端と次列風切羽先端の黒色はない-----カンスーガビチョウ *G. sukatschewi*(107)
17. 頭頂あるいは頬が栗赤色-----ズアカガビチョウ *G. erythrocephalus*(143)
- 頭頂と頬が栗赤色でない-----18
18. 体上面に鱗状の斑-----アオバネガビチョウ *G. squamatus*(131)
- 頭頂から背部まで黒色細紋-----ムナフガビチョウ *G. lineatus*(129)
- 体上面に斑点がない-----19
19. 両翼表面オリーブ黒褐色-----ガビチョウ *G. canorus*(125)
- 両翼表面は主に灰色あるいは藍灰色-----シラヒゲガビチョウ *G. henrici*(137)
- 両翼表面が主に赤紅色-----20
- 両翼表面が主に橙黄色あるいは緑黄色-----21
20. 頭頂は灰色を帯びたオリーブ褐色、黒い縦紋がある。
 耳羽は灰白色に黒い紋、腹部は茶褐色-----アカバネガビチョウ *G. formosus*(146)
- 頭頂は栗褐色で斑点はない、耳羽は灰白色、腹部暗い灰色-----アカオガビチョウ *G. milnei*(147)
21. 白い頭側線と頬線-----キンバネホイビイ *G. morrisonianus*(142)
- 白い頭側線がない-----22

- 22. 頬が黒い.....23
 顎は黒くない.....24
- 23. 尾羽中央の前部が黒色、背部と上尾筒は灰褐色-----ヒマラヤガビチョウ *G. variegatus*(104)
 尾羽中央が灰褐色、前部が濃く輝く緑黄色、
 上尾筒は赤褐色-----キンパネガビチョウ *G. affinis*(139)
- 24. 下尾筒が赤褐色-----カキハガビチョウ *G. ellioti*(135)
 下尾筒がオリーブ褐色-----ウロコガビチョウ *G. subunicolor*(132)

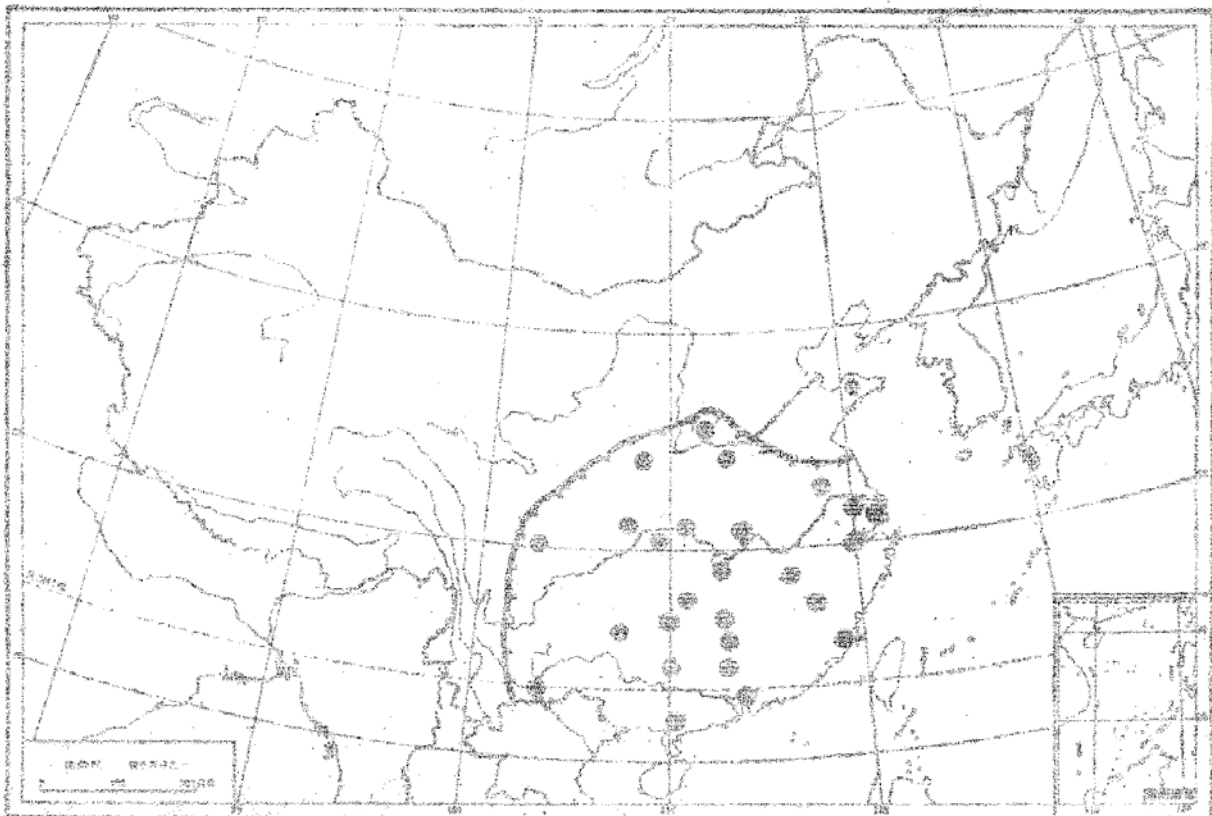
30. カオグロガビチョウ 黒臉噪鷲 *Garrulax perspicillatus* (Gmelin)

英名: Spectacled Laughing Thrush

分布地理 陝西省秦嶺山脈、山西省南部、河南省北部、安徽省滁州以南、西は四川省雅安、貴州省および雲南省南東部の広い地域に生息し、国外ではベトナム北部にわずかに見られる。

識別特徴 本種はガビチョウ類中比較的大型の鳥で、通常見かけるガビチョウより大きい。額、顔および耳羽などは眼鏡をかけたように黒い、上体は大部分褐色で、前胸部は灰褐色で腹部にかけ次第にトビ色を増し、下尾筒は肉桂色を呈す。

形態 (湖南省で採取された標本による) 成鳥: 額から眼の周囲、耳羽にかけて黒く、眼鏡を架けたようである。それゆえ“眼鏡笑鷲”¹⁾ともいわれる。頭頂と後頸部は灰褐色で羽軸および羽端はやや濃く、ぼんやりとした斑紋がある。上背は灰色を帯びた褐色で中ほどから上尾筒にかけて次第に褐色が濃くなる。翼の雨覆と3列風切も上尾筒と同色で、他の風切羽は鈍い褐色をしており、外縁が黄褐色である。尾羽の中央1対は深い褐色、両側の尾羽は栗褐色、それら尾羽の中ほどから黒い横斑があり、これらの黒斑は外側の尾羽に向かって次第に融合し、やがてこの部分は黒色に変わる。顎、喉および胸は灰褐色で、顎がやや暗色を呈する。体下面は灰白色、腹部



分布図 21 カオグロガビチョウ *Garrulax perspicillatus*

はトビ色に染まり下尾筒と腿にむかって肉桂色となる。脇羽と翼下は浅黄褐色である。

幼鳥；成鳥とよく似ているが、羽色が濃く、頭部は灰色を帯びず、褐色である。体羽も成鳥に比べ柔らかく不鮮明な色をしている。下尾筒はさらに柔らかな褐色をしている。

虹彩は褐色、嘴峰は暗褐色、下嘴は角色を帯びた褐色、跗蹠は角色。

体の計測

性別	体重	全長	嘴峰	翼	尾羽	跗蹠
♂(10)	123.6	約90	24.8	122.9	143.6	42.3
	(102-142)	(266-311)	(22.5-26.5)	(113-127)	(127-157)	(38.5-43.5)
♀(10)	112.2	約297	24.7	119.6	143.0	41.6
	(98-130)	(282-320)	(21.5-27.5)	(115-124)	(134-149)	(40-42.5)

分類考察 Riley(1911)により、西安で採取されたカオグロガビチョウの体上面と下面の羽色が比較的淡い色であることから、新亜種として“*Dryonastes perspicillatus shensiensis*”と命名し、Reichenow(1917)もまた秦嶺山脈での標本が、全体に羽色が淡く、ことに体下面が淡いのと、嘴峰がわずかに25-28.5mmと短いことをもって新亜種として“*Dryonastes tsinlingensis*”と命名し発表した。我々は陝西省、湖南省、安徽省、福建省の標本を用いて、対比しながらガビチョウ属の地域的個体群の差異を調査したが、これらの亜種を一先ず区別することは出来なかった。

Delacour(1927)はベトナムの標本から“*Dryonastes perspicillatus*”を新亜種として発表した。認められるに至らず(Deignan, 1964)、同時にこれもすでに“*Garrulax merulinus annamensis*” Robinson et Kloss, 1919として報告されている。したがって、今日においてはカオグロガビチョウは単独の種としてとどまっている。

生態 生息場所は、平地と丘陵の低灌木叢の茨の中や、ときには耕地の近くの藪あるいは庭園の生垣の下生えの間などを織機の杼のように飛び回る。彼らは長距離を飛ぶことを得意とせず、その飛ぶ姿は不器用で、てこずっているようであるが、地上では跳ねるように飛び回る。性質は活発だが臆病で、常に群れをなして行動し、多くは20羽ほどの群れを作る。我々が湖南省で観察した繁殖期の彼らもまた、群れをなしていた。秋になると更に群れは大きくなり、林の間や庭園の中など何処でも見られる。

常に休みなく小声で喋り、夏には甚だしくなる。それで、またの名を“^{チオオガアツン}嘈雜鶉*2、^{ディエリンズイ}喋林鶉*3、あるいは七姉妹*4などといわれる。鳴き声は明るく大きな声で、“diu-diu”と鳴き、ときには“ji-diao, ji-diao…”とも聞こえる。よって広東一帯の獵師は彼を^{ジエアアア}吉吊鳥*5と呼んでいる。北方の人がこの鳴き声を聞くと“shao-liao”となり、聞きなしでは“受不了、受不了”*6と聞こえるようだ。どうであろうと、この鳥の鳴き声は簡単で、誰が聞いても、忘れることは出来ない。ときどき群れの中の1羽が鳴き始めると、他の鳥たちが呼応して鳴き、やがては全群が鳴きだし、人の注意を引きやすい。彼らの鳴き声の響きは、常に他のガビチョウ属の鳴き声を誘い、長く鳴き止まない。このカオグロガビチョウの分布するほとんどの地域内で、カオジロガビチョウ *Garrulax sannio* との混群で行動し、繁殖期といえども混群を作り、時には同一巢内に産卵しているものを見ることがある。

カオグロガビチョウは雑食性である。食べるものは季節に関係があるが、主要な部分は昆虫食

である。我々は1955～1957年にかけ湖南省の鳥類調査中4, 5, 6, 7, 10, 11, 12月までの7カ月間に採取した41羽の胃内容剖検記録の主要食物は昆虫、ことにイナゴ類、モモチョッキリ(オトシブミ科)、マメコガネ、カメムシ類および鱗翅目昆虫の幼虫などが多かった。ただ1匹だけ小エビを検出した。植物性食物としては半ば消化されているが残された種子はムギ、トウモロコシ、粳等であった。この不完全な数字であるが、採食したもののうち10%が農作物であった。5月期に採取した1羽の胃内容から麦粒が見られ、他の1羽からは果樹、蔬菜など農作物害虫のマメコガネが検出された(鄭作新等, 1961)。1954～1955年の間に福建農学院が福州近郊一帯で採取した86羽のカオグロガビチョウは10, 11, 12, 3, 4月の5カ月では、彼らの主要な食物は農作物に頼ることが多く、アワ、ムギ、クロクワイ、サツマイモと少々の果物、他にわずかな昆虫であった。しかし、5～9月間の食物は昆虫が主で、マメコガネ、ウリハムシなどハムシ科の昆虫、イネゾウムシ、カメムシ類、イナゴ類、鞘翅目、直翅目などの昆虫およびそれらの幼虫が見られ、他に穀物、豆類、リュウガン、および野生の果実等も検出されている。梁啓榮(1957)は湖南省長沙において1, 2, 12の3カ月で6羽の胃内容を剖検し、ショウの樹とシャクナゲの種子、その他果皮の細片等植物性のものを検出したとしている。我々も60年代初期に13羽の胃内容から、一部を除いては、すべて昆虫と植物性の食物が見られた。その食べていた昆虫は主に甲虫類で(8回)、植物では野生植物の種子(6回)と果実(3回)とトウモロコシ粒であった。

繁殖 3月から8月に至る間、巢は細い樹枝、草の茎、枯れ葉、葉柄、蔓、柔らかい樹皮等を積み重ね、深い碗状で、大きいのが粗雑、内側の敷物には蔓、柔らかい草、松葉、イネ科の細い枯れ草など柔らかいものを選んでいる。一般に巢は、高さ数mの灌木林、竹林、あるいは密生した植え込みの中に、地面より1～2mの高さに作られる。1巢卵数は3～4、卵は灰青色あるいは光沢に富んだ青白色で、斑点はない。大きさの平均は27.9×21.0mm。孵化後羽毛が整うまで親鳥の保育を受け、巣立ち後も親鳥とともに行動する(鄭作新, 1966)。

Turdus perspicillatus Gmelin, 1789, Syst. Nat. 13, 1: 830 (モデル産地: 中国福建省廈門に限られる)

Dryonastes perspicillatus shensiensis Riley, 1911, proc. Biol. Soc. Wash. 24: 43 (モデル産地: 陝西省)

Dryonastes tsinlingensis Reichenow, 1917, Journ. Orn. 65: 391 (モデル産地: 陝西省秦嶺)

Garrulax perspicillatus Vaurie 1959, 423-424; Deignan (in Mayr et Paynter), 1964, 10: 350-351; 鄭作新等, 1973, 173; 鄭作新, 1976, 626.

訳注

- *1 眼鏡笑鶉; メガネをかけた笑いツグミの意
- *2 増雑鶉; うるさいツグミの意
- *3 喋林 ; 林でさわぐチメドリの意
- *4 七姉妹; 姦しい女兄弟の意
- *5 吉吊鳥; 幸運を吊る鳥の意
- *6 受不了; たまらないの意

43. ヒゲガビチョウ 灰翅噪鵲 *Garrulax cineraceus* (Godwin-Austen)

英名 Ashy Laughing Thrush

地理的分布 我が国の分布は甘肅省西南部から陝西省南部、山西省文水以南およびチベットの昌都地域東南部、雲南省西部から南部一帯。国外ではミャンマーおよびインドアッサム地域で見られる。

識別特徴 体形、大きさはガビチョウと似ている。頭頂は灰色あるいは黒。体上面はオリーブ褐色ならびに茶褐色。風切羽および尾羽の先端が白色で続いて幅広い黒色斑があり、対照的でよく目立つ。体下面は全体的に茶褐色。

形態 (陝西省西南部の標本による) 額は黒。頭頂から後頭部まで暗灰色。眉斑は淡い栗色。目先、顔および耳羽の基部は白色、耳羽の後部は栗色。頬線は黒色で白く綴られる。体上面はオリーブ褐色、腰は茶褐色。翼の雨覆と背部は同様にオリーブ褐色。小雨覆の内弁は褐色、外弁は灰色。初列雨覆は黒色。初列風切羽7枚の内弁は黒、外弁は藍灰色、その他の風切羽の外弁はオリーブ褐色。最も内側の風切は内外弁のすべてがオリーブ褐色。最も外側の7枚を除く風切羽は幅広く黒色で、先端の短い部分が白色。尾羽はオリーブ褐色で、続いて黒色の部分があり、その先端は白色、尾羽中央の僅かな先端部分は白色で、尾羽の白色部分は外側の羽ほど大きくなる。頬は白色。喉から腹の前部は淡く灰色を帯びた葡萄酒色、胸は灰色が濃く、喉の部分に黒褐色の斑紋がある。両脇は灰色を帯びたオリーブ褐色。腹の後部は茶褐色、下尾筒、腿羽も茶褐色。

年を経た鳥の頭頂と後頸は黒色が深く、体上面と下面の茶褐色も濃くなる。

虹彩は淡褐色、上嘴は暗褐色、下嘴は黄色。脚、趾、爪は暗黄色。

体の計測

性別	体重	全長	嘴峰	翼	尾羽	跗蹠
♂(2)	52	226	19-20	86-88	99-110	34.6-35.3
♀(2)	47-48	200-225	19	84-86	100-111	35-36

討論 La Touche は本種の幼鳥について“体上面は茶褐色で、オリーブ褐色ではなく、頭頂も褐色で、背部はやや暗色”と述べている。しかし、標本の調査により、およそ頭頂が暗灰色をした鳥は、体上面がオリーブ褐色で、頭頂が黒色のものは、一般的に老鳥と認められ、その体上面は茶褐色、下面も茶褐色である。

亜種分化 本種の亜種は3つの亜種に分けられ、そのうち基亜種はインドアッサム地域とミャンマーで見られ、国内では2亜種が分布している。

亜種検索

頭頂が黒色、眉斑と耳羽の後が茶褐色

西南亜種 *G. c. strenuus*

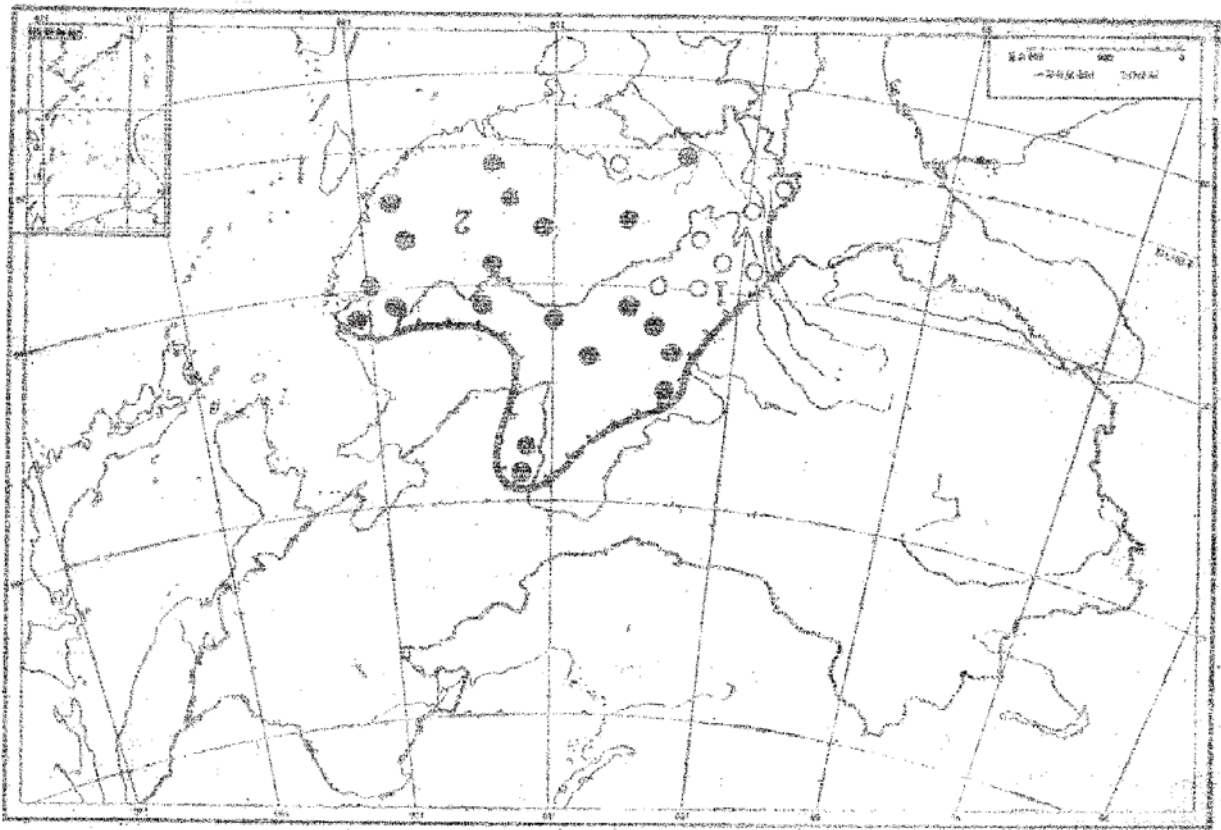
頭頂が暗灰色ないし黒色(老鳥)、眉斑と耳羽の後が栗色

華南亜種 *G. c. cinereiceps*

ミャンマーでは基亜種以外さらに一亜種“*styam*” = *G. c. cinereiceps* がある (Smythies による)。しかし、地理的な観点からすると、*G. c. cinereiceps* ではなく、*G. c. strenuus* と思われる。

(1) 西南亜種 *Garrulax cineraceus strenuus* Deignan

チベットの昌都地域から東南部、四川省中部の峨眉、西部の康定、西南部の会東、雲南省西北部



分布図31 ヒゲがビチョウ *Garrulax cineraceus*

1. *G. c. strenuus* ○ 2. *G. c. cinereiceps* ●

のとおりである。

眉斑と耳羽の後半が褐色で、栗色ではないことが華南亜種との識別となる。他はすべて似ている。

体の計測

性別	体重	全長	嘴峰	翼	尾羽	跗蹠
♂(5)	44-57	220-248	17-21	82-89	101-109	32-39
♀(3)	52-55	230-244	18-19.5	81-90	96-113	33-39

Trochopteron Styani Oustalet, 1901, *Nouv. Arch. Mus. Hist. Paris* (4) 3 : 276 (サンプル採集地 四川省康定及び雲南省西北部茨姑), *nec. Trochalopteron styani* Oustalet, 1898, = *Garrulax cineraceus cinereiceps* (Styan), 1887, *Garrulax cineraceus strenuus* Deignan, 1957, *Proc. Biol. Wash.* 70 : 190 (サンプル採集地：雲南省瀾滄江山脈).

(2) 華南亜種 *Garrulax cineraceus cinereiceps* (Styan)

甘肅省南部、陝西省西南部、山西省文水以南、四川省北部の平武、東北部、中部の灌県以東の大陸に分布するが、海南島、台湾には分布しない。

形態および体の計測は前掲の通り。

Trochalopteron cinereiceps Styan, 1887, *Ibis* (5)5 : 167, (飼い鳥, 湖北省漢口で購入).

Trochalopteron ningpoense David et Oustalet, 1890, *Naturaliste* : 186 (サンプル採集地：浙江省寧波).

寧波).

Trochalopteron Styani Oustalet, 1898, Bull. Mus. Hist. Nat. Paris 4: 226, (四川省康定及び雲南省茨姑); nom. for *Trochalopteron cinereiceps* Styan.

生態 秦嶺山地の標高 600~1250m, 斜面の高木林, 竹林, 灌木叢中に小群を作って行動している。雑食性。9~10月の剖検による 18羽の胃内容は昆虫と植物性物質で 72%を占めた。食べていた昆虫はカミキリムシ, など甲虫(4回)毒蛾の毛虫(2回)および蜂, 蚊等で, 植物性食物では野生植物の果実(7回)と雑草種子(2回)であった。他に甲殻動物が1回あった。

昆明動物研究所において 1965年5月20日騰冲大塘山の斜面灌木叢で1巣を採取した。地面から 1.5m で三叉になった枝の部分に作られた巣は碗状で, 外層は茅の葉や細い藤蔓で粗雑に作られ, 内層はシュロ糸が敷かれていた。巣の外径は約 150mm, 内径は 70mm, 深さは 45mm, 巣内には 4羽の雛がいた。

Trochalopteron cineraceum Godwin-Austin, 1847, Prov. Zool. Soc. London: 45 (サンプル採取地: インドアッサムの Manipur).

Garrulax cineraceus, Deignan (in Mayr et Paynter), 1964, 302-363. 鄭作新, 1976, 636-637.

51 ガビチョウ 画眉 *Garrulax canorus* (Linnaeus)

英名; Hwamei

地理的分布 甘肅省, 陝西省および河南省南部から南へ四川省雅安市と雲南省西部から台湾と海南島を含む華南一帯に分布し, 国外ではベトナムとラオス等の北部で見られる。

識別特徴 体上面はオリーブ褐色を呈し, 頭頂から上背にかけて黒褐色の縦紋がある。眼の回りは明確な白色の眉斑が後方へ延びている。腹はトビ色で中央部分は灰色となっている。

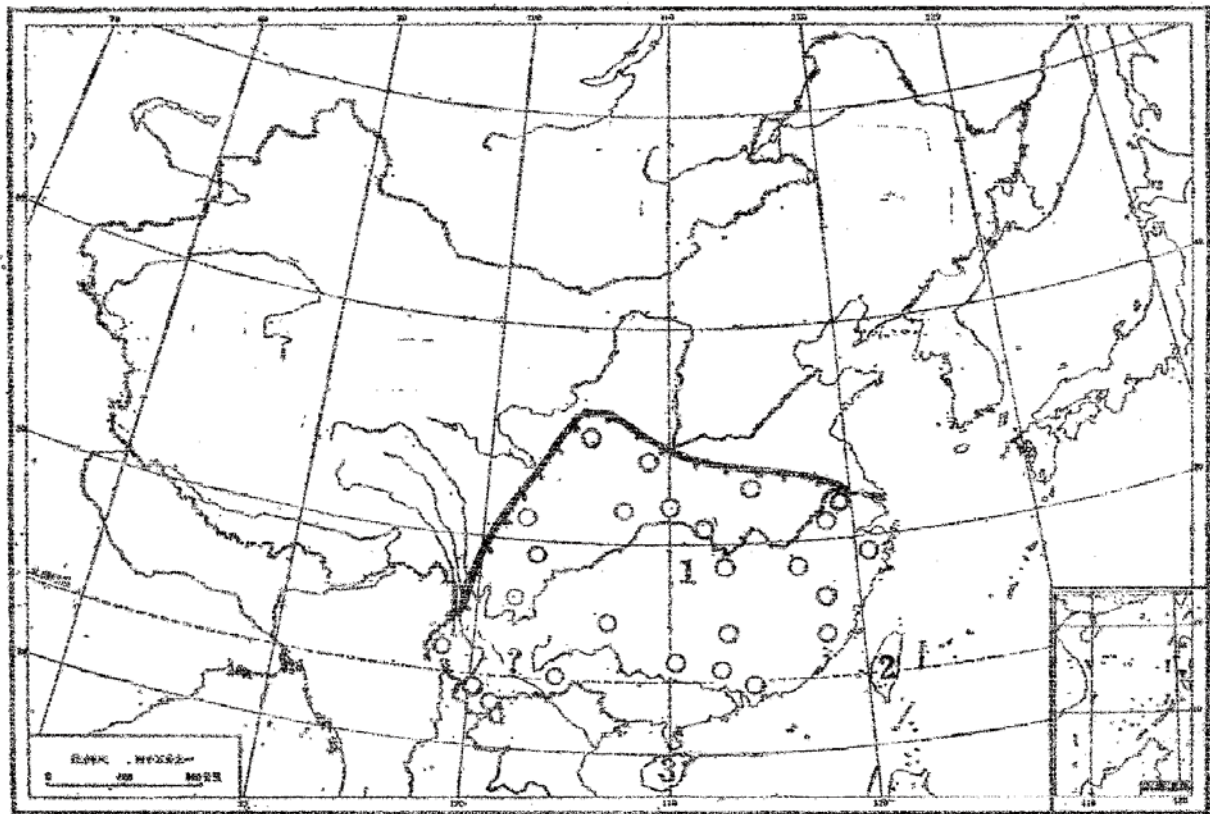
形態(陝西省秦嶺で採取された標本による) 眼の回りは明確な白色の眉斑が後ろへ向かって延び, 美しい三日月状をなしている。したがって, 画眉といわれるようになった。眼先と耳羽は暗赤褐色, 額は褐色, 頭頂から上背にかけて赤褐色で広く黒褐色の縦紋がある。この縦紋の黒褐色は前が濃く後ろへ向かって次第に淡くなる。背中の後方から腰にかけ, また頭頂も同じ色であるが縦紋がない。雨覆および風切羽はすべて背と同色で初列風切羽の外弁は茶褐色, 内弁の基部は幅広く茶褐色をしている。尾羽は濃い褐色で, 黒褐色の黄斑があり, 羽端は暗褐色をしている。腹部は中央の薄く汚れたような灰色の部分を除いて, 黄色を帯びた茶褐色, 脇はやや暗色である。頬から喉, 前胸部まで黒褐色の細い紋があり, 雨覆は黄色を帯びた茶褐色である。雌雄の色彩は変わらない。

幼鳥; 成鳥に比べて羽色がやや浅く, 茶褐色に富んでいる。頭頂, 後頸, 喉, 胸などの縦紋は不均一で, 尾羽の横斑も明確でない。

虹膜はオリーブ黄色, 嘴峰は角色で, 緑の色はやや浅く, 下嘴は淡いオリーブ黄色, 基部は少々黄色が濃い。脚は黄褐色で爪はやや淡い。老鳥は下嘴が黄色に近く, 跗蹠は淡い角色を呈している。

体の計測

性別	体重	全長	嘴峰	翼	尾羽	跗蹠
♂(10)	68.4	約 233	20.9	93.2	101.7	35.1
	(65-75)	(216-245)	(19-21.5)	(90-96)	(93.5-107)	(33-37.4)
♀(10)	67.5	約 221	20.3	87.1	94.9	34.8



分布図 38 ガビチョウ *Garrulax canorus*

1. *G. c. canorus* ○ 2. *G. c. taewanus* 3. *G. c. owstoni*

亜種分化 国内には3亜種がある。

亜種検索

- 1. 白い眉紋がない。喉が赤褐色。……………台湾亜種 (*G. c. taewanus*)
- はっきりとした白い眉紋がある。…………… 2
- 2. 上体がより褐色を帯びたトビ色 ……………標準亜種 (*G. c. canorus*)
- 上体がよりオリーブ褐色 ……………海南亜種 (*G. c. owstoni*)

(1) 基亜種 *Garrulax canorus canorus* (Linnaeus)

我が国華南一帯に分布する。外国においてはベトナム、ラオスなどの北部で見られる。形態と体位測定値は前述。

本亜種の羽色がキツネ色をしているものがあり、したがって雲南省河口¹⁾の別亜種 *Trochalopteryx canorus namtiense* とされることがあるが、これらは現在では基亜種に別名を付けたものとされている。1980年鄭宝賚と楊嵐²⁾が雲南省西部の路西および西南部の孟連から、もう一つの新亜種である“*Garrulax canorus mengliensis*”を報告した、並びに *G. c. yunnanensis* をもって、この新亜種と標準亜種の間中型となし、同時に雲南省の無量山と哀牢山北側および元江から貴州省南盤江に至る一帯をもつて新亜種と標準亜種をつなぐ(あるいは移行型)の生息する地帯で、その区切られた移行地帯は相当に広く、*G. c. yunnanensis* (= *G. c. namtiense*) のモデル産地である河口もこの移行地帯に入っていることを考え、この新亜種がもし

確立することができたなら、この名は *G. c. namticnse* となるべきではないか。この問題は *G. c. namticnse* の標本を精査し決定すべきで、現在この懸案に対し、新しい標本、資料を対比しながら、解決をすべく検討を行なっている。

Turdus canorus Linnaeus, 1758, Syst.Nat., ed. 1: 169(モデル採集地: "Benghala, China"; 福建省厦門による, Meinertzhagen).

Trochalopteron canorum namtiense La Touche, 1923, Ibis(11)5: 317: nom. nov. for: *Trochalopteron canorum yunnanensis* (sic) La Touche, 1921, Bull. Brit. Orn. Cl. 42:52 (モデル採集地: 雲南省河口); nec *T. elliott yunnanense* Rippon, 1906, Bull. Brit. Orn. Cl. 19:32. *Trochalopteron touchena*(sic) Mathews, 1934, Bull. Orn. Cl. 55: 24; nom.nov. for *T. C. yunnancnse*.

?*Garrulax canorus mengliensis* Zheng et Yang, 1980, Zool. Res. 1(3): 391-395(モデル採集地: 雲南省孟連).

(2) 台湾亜種 *Garrulax canorus taewanus* Swinhoe

分布 台湾に限られている。

白色の眉紋がない。上体がオリーブ褐色。喉が赤褐色。

体の計測 (Hachisuka et Udagwa, 1951 による);

性別	翼	尾
♂♀	82-98	92-112

Garrulax taewanus Swinhoe, 1859, Journ. N. China Br. Roy. As. Soc. 1(2): 228(モデル採集地: 台湾)

(3) 海南亜種 *Garrulax canorus owstoni* (Rothschild)

分布 海南島に限られる。

体型は標準亜種に比べやや小さい。上体はよりオリーブ褐色が強い。

体の計測

性別	体重	全長	嘴峰	翼長	尾	跗蹠
♂(8)	55-75	210-242	20-22	83-92	98-108	33.5-37
♀(6)	50-56(4)	215-223(4)	20-23(3)	85-94	96-109	33-35

Trochalopteron canorus owstoni Rothschild, 1903, Bull. Orn. Cl. 14:8 (モデル採集地: 海南島)

生態 山岳や村落付近の灌木叢、竹林あるいは庭園など、平地から 1500m の高地まで生息する。単独で行動することが多いが、小群で行動することもある。臆病だが機敏で、通常は茂みの深い樹間や草叢を飛び交い、よく鳴く。驚いた時、素早く幹の影に隠れ、何処かへ去っていく、そのため見つけることが難しい。

ガビチョウはよく囀り、ことに繁殖期の雄は長く高らかに鳴く。歌声は何時までも絶えることなく、変化に富み人をひきつける。したがって、飼い鳥として喜ばれる。

食性は雑食。中国科学院動物研究所が 1955~57 年の間に行った 68 羽の胃内容分析結果では、主要な食性は昆虫食で、とりわけ農作物の生長期に多い。秋以後は植物の種子等を多く食しているが、昆虫も相当数を占めていた。昆虫はバッタ類、カメムシ類の卵、マツケムシ (*Dendrodimus punctatus*) の卵、アリ、金亀甲 (コガネムシ類)、銅緑金亀甲 (*Anomala corplenta*),

鱗翅目の幼虫等の害虫の他、少数の蜂類など益虫も入っていた。植物性食物では草の種子、果実等であった。

繁殖期は4～7月の間、年2回以上繁殖し、福建省では5月産卵、広東省では4～7月産卵、育雛を行う。巣は地上50cmから2mほどの高さの草叢、灌木叢等に作られる。巣は杯状あるいは楕円の皿状で、外層は木の葉、竹葉、草の茎、柔らかい枝や蔓で粗雑に作られ、内側に細い草、松葉、細い蔓、草の根、蘚苔類が使われている。1巣卵数は3～5卵。卵形は楕円形だが大きさとともに変化が大きい。21卵の大きさは平均26.1×20.2mm、最大値29.0×25.0mmおよび27.5×21.1mmであり、最小値は24.5×20.1mmおよび25.0×19.5mm(Hachisuka, 1951)。卵は宝石のように藍緑色で、大きな斑点がある。卵殻は光沢があり美しい。

中國は世界の“ガビチョウの国”と言われ、ガビチョウはまた、チメドリ類の王とも称されて飼鳥として珍重され、自然界においては農林業の益鳥として保護されている。

Turdus canorus Linnaeus, 1758, Syst. Nat., ed. 10, 1, 169(サンプル採集地。“Benghala, China” 福建小厦門, Meinertzhagenによる)。

Garrulax canorus, Delacour et Jabouille, 1931, 3: 236-238; Vaurie, 1959, 431; Deignean(in Mayr et Paynter), 1964, 369; 鄭作新, 1976, 643-644.

訳注

*1 河口；雲南省の地名

52. カオジロガビチョウ *Darrulax sannio* Swinhoe*

英名；White-browed Laughing Thrush

地理的分布 甘肅省と陝西省の以南、およびチベット昌都地域と雲南省西部以東の海南島を含む華南大陸に分布し、国外ではインドアッサム、ミャンマー東北部、ラオスとベトナムの北部に分布する。

識別特徴 全体を通して、深い浅いの違いはあるが茶褐色で、頭側に明らかな白色の眉斑がある。目先と頬も白色である。

形態 (四川省宣濱での採集標本による) 頭頂から後頸まで栗褐色。眉斑は白色で古くにはガビチョウと言われたこともある。眼の後から耳羽にかけて黒褐色。眼先および頬は白色でわずかに褐色を帯び、ことに眼先に見られる。背面は茶褐色。両翼の表面も同様に、初列風切羽の外弁は淡い褐色となっている。尾羽は深い褐色。喉と胸は頭頂と同色だが、やや淡く浅い。腹部は淡い褐色。両脇と腿羽はやや暗褐色。下尾筒は赤褐色。

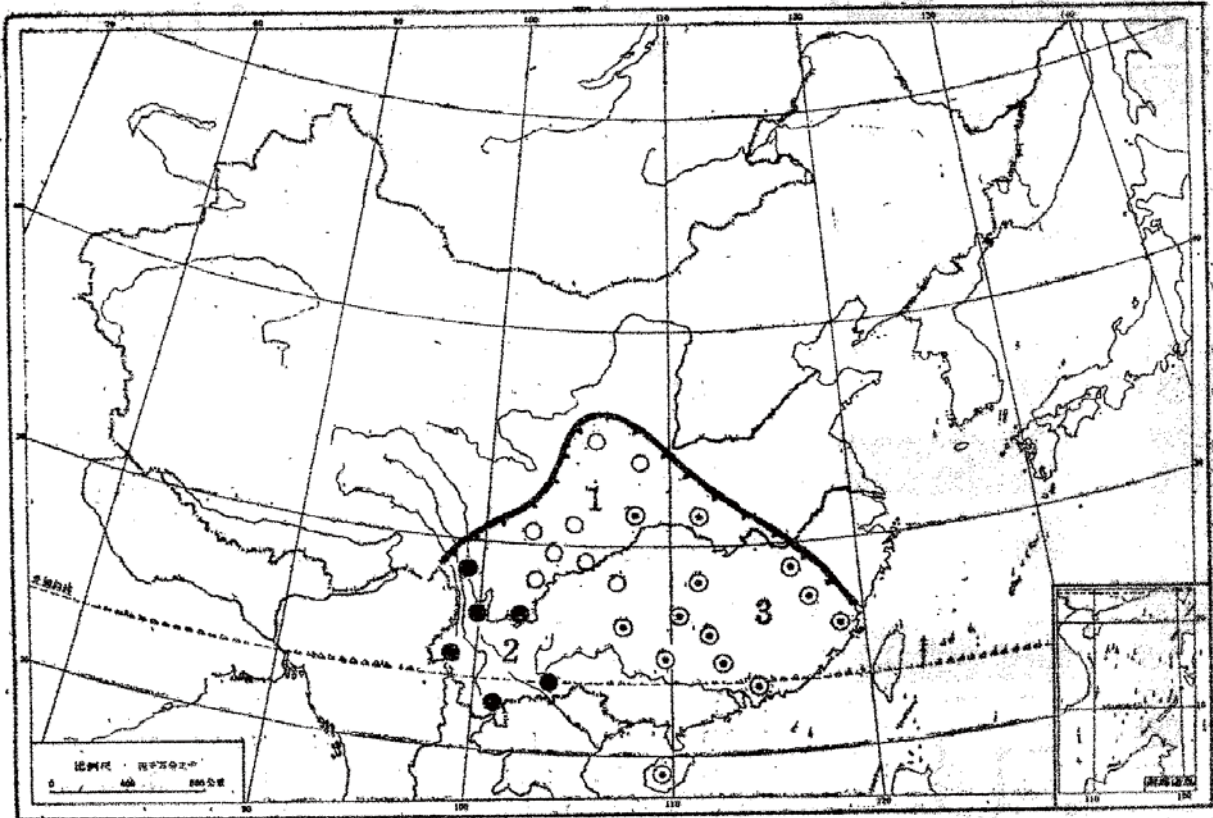
雌雄同色。

虹彩は栗色。嘴は黒みを帯びた角色。跗蹠は黄褐色。指、爪等はさらに深い黄褐色。

*この鳥の羽色は季節により濃淡の変化がある。したがって、標本を季節により対比されたい。

体の計測

性別	体重	全長	嘴峰	翼	尾羽	跗蹠
♂(20)	67.5	228	21	96.5	108.8	38
	(60.5-78)	(210-255)	(19-22)	(91.5-99.5)	(98-115.5)	(36-39)
♀(20)	65	215	20.6	93	104	37
	(57-70)	(108-234)	(19.5-22.5)	(90-98)	(97.5-111.5)	(35-39)



分布図 39 カオジロガビチョウ *Garrulax sannio*

1. *G. s. oblectans* ○ 2. *G. s. comis* ● 3. *G. s. sannio* ⊙

亜種分化 4 亜種に分化しており、このうち 3 亜種が我が国分布している。

亜種検索

- 1. 背面が比較的赤褐色 (褐色がより濃い).....2
 背面が比較的オリーブ褐色, 褐色が薄い. 眼から耳羽が黒褐色.
 眉斑は白. 頬は白で淡い褐色を帯びる..... 基亜種 *G. s. sannio*
- 2. 眼の後から耳羽まで黒褐色. 眉斑純白.
 頬は白で淡い褐色を帯びる..... 四川亜種 *G. s. oblectans*
 眼の後から耳羽まで深い赤褐色.
 眉斑と頬は均等に褐色を帯びた白..... 雲南亜種 *G. s. comis*

(1) 基亜種 *Garrulax sannio sannio* Swinhoe

長江以南および貴州省以東の大陸地域 (海南島を含む) に分布する. 国外ではベトナムにおいて見ることができる.

形態は前述の亜種検索を参照.

体の計測

性別	体重	全長	嘴峰	翼	尾羽	跗蹠
♂(20)	67.5	228	21	96.5	108.8	38
	(60.5-78)	(210-255)	(19-22)	(91.5-99.5)	(98-115.5)	(36-39)
♀(20)	65	215	20.6	93	104	37
	(57-70)	(108-234)	(19.5-22.5)	(90-98)	(97.5-111.5)	(35-39)

Garrulax sannio Swinhoe, 1867, Ibis (2) 5: 403 (サンプル採集地: 福建省廈門).

(2) 四川亜種 *Garrulax sannio oblectans* Deignan

甘粛省と陝西省西南部, 四川省中部の峨眉, 宝興, 北東部の万源, 南部の宣濱, 雷波, 湖北省西部および貴州省中部と北部などに分布する. 国外にはこの亜種は分布しない.

形態および体の計測は前掲を参照.

Garrulax sannio oblectans Deignan, 1952, Postilla 11: 3 (サンプル採集地: 四川省宣濱).

(3) 雲南亜種 *Garrulax sannio comis* Deignan

四川省西南部, 西昌, 木里, チベットの昌都地域東南部, 雲南省北部から東南部に分布する. 貴州省興義では基亜種と交雑している. 国外ではミャンマー東北部, ラオスとベトナムの北部に分布する.

形態は前述の検索を参照.

体の計測

性別	体重	全長	嘴峰	翼長	尾	跗蹠
♂(4)	62-63	204-260	19.7-21	83-97	110-116	35-40.2
♀(3)	65-68	234-236	19.4-20.4	88-93	94-113	37-40.2

Garrulax sannio comis Deignan, 1952, Postilla 11: 3 (サンプル採集地: 雲南省麗江).

生態 平地から標高2000m余の高山まで生息し, 山嶺, 溪谷, 山麓および田野の灌木叢と矮性の樹林で活動する. よく群れをつくり, 常にカオグロガビチョウと混群で行動する. 習性は他のガビチョウ類と似ているが, 他と異り臆せず驚かず, よく鳴く, 声はカオグロガビチョウとよく似ており, “jeer-jeer” とおる声で喧しく鳴く, 天気の良い明け方に, お互い合い呼応して, 何時までも休みなく鳴く. 彼らは高く飛ばず, 茂みの中を縫うように飛び交い, 静止することが少なく, その形を見つけることが難しい.

食性 雑食性. しかし, 昆虫食が多い. 鄭作新(1961)の湖南省における46羽の剖検結果による胃内容はバッタ類, カマキリ, 銅緑金亀虫(*Anomala corpulenta*), その他のコガネムシ, カメムシ, 松毛虫(*Dendrodimus punctata*)の卵, シロアリ, アリ等である. 植物性食物は野生植物の種子が最も多く, 2羽の胃内容には農作物の種子が見られた. 秦嶺地域の5~10月間の125羽の剖検による胃内容は, 食物全体に昆虫が現れる頻度は80%で, 植物性物質は58%を占め, 残りをクモ類とエビ等で, これらを食べていたのは2回であった. したがって, 昆虫のうち主に甲虫(65回)で, 例えばゾウムシ, コガネムシ, イネドロムシ, カミキリムシ等多くの害虫が食べられ, 中にはわずかな益虫も含まれていた. たとえば, テントウムシ(4回), オサムシ(2回)等で, 昆虫の幼虫とアリの検出が少なくなく, 15回を占めた.

繁殖期 一般には3~7月の間. 李桂垣(1982)による四川省成都における報告では, 発見された10巣は, コノテガシワ, タケ, シュロの樹上で, 地上1.36~6mの高さに作られていた. 巣は碗形で, 外層にイネの葉, タケの葉, 細い藤蔓, 松の枝, イネ科植物の茎, 麦藁, シュロの糸などが使われ, 内層には細い草の茎, マツの枝, マツの葉, コノテガシワの枝, タケの根, 細い樹根等が使われていた. 巣の大きさ(10巣), 外径(11~20)13.8×11.4(7.5~14), 内径(6~9.5)8×8(6~9), 高さ9.5(8~12), 深さ6(4~9.2)cm. 1巣卵数4卵. 卵の形は鈍端の楕円形で光沢のある藍色あるいは純白. 23卵の平均重量5.32(4~6)g, 大きさ26.2(22.5~28.2)×

20.6(19~30)mm. 抱卵期間 15~17 日. 育雛期間 12 日. 抱卵, 育雛は雌雄共同で行う. 孵化したばかりの雛は全身裸で, 羽毛がない. 3~4 日齢で翼, 肩, 背, 両脇に羽毛が生えはじめ, 5 日齢で目が開く. 雛の食物はすべて昆虫で, カオジロガビチョウの繁殖期は農林害虫の防除に非常に有用である.

Garrulax sannio Swinhoe, 1867, Ibis (2) 5 : 403(サンプル採集地; 福建省廈門). Vaurie, 1959, 431-432. Deignan (in Mayr et Paynter), 1964, 369-370. 鄭作新, 1976, 644-645.